



自動薪割機の導入による生産量の 増大及び生産コストの低減

平成25年度 補正予算事業

実施した事業の概要と成果

薪ストーブユーザー、薪窯料理店（ピッツェリア等）、鯉節生産業者（焙乾用）における薪の需要は年々増加しており、特に、鯉節焙乾用薪は枕崎・山川で大量に消費されている。

一方、薪生産者の高齢化・後継者不在等で慢性的な薪不足の状態にあり、現地調査の結果、当初予想していた状況をはるかに上回る薪の供給不足であった。

しかし当社は、薪の生産が手作業であるため、平成26年度で生産量は限界を迎え、この目の前の需要をみすみす逃してしまうところであった。「玉切り」、「薪割り」を自動化する大型機械の導入で、大量生産を実現し、この旺盛な需要に応えることが可能となった。

また、紙の生産量が減少傾向にある一方、木質バイオマス利用推進で広葉樹伐出量増加が予想され、薪は広葉樹の大変有効な加工品になると見込んでいる。



手作業による玉切り



割り工程後の薪



技術開発や課題解決への取り組み

大型の自動薪割り機は、国内では調達できず、薪の単位や測量方法など規格化されているヨーロッパから導入した。

薪は、「玉切り」、「薪割り」、「乾燥」の工程を経て生産されるが、手作業ではチェーンソーや薪割り機を使うため、長さや太さの調整など都度、調節の必要があった。

この薪割り機では、一旦丸太をセットすると、玉切りから薪割り、排出まで自動で行うことが可能となり、また、パレットへの積み込みも容易になった。その結果、手作業と比較して約40倍の生産量を実現した。



機械による薪割り



手作業による薪割り

事業者 前田産業株式会社

代表者 代表取締役 前田 清忠

設立年月 昭和33年8月

所在地等 〒899-4204
霧島市霧島川北883-9
TEL: 0995-57-2980
FAX: 0995-57-2981
E-mail: info@maeda-green.co.jp
http://maeda-green.co.jp/

事業区分 ものづくり技術

資本金額 1,600万円

従業員数 14人

業 種 木材・木製品製造業、廃棄物処理業

前田産業株式会社の

生魂
いっただまし

専務取締役
前田 清水



補助事業取り組みへのきっかけ・目的は？

平成24年から薪生産を開始したが、当初個人用の薪ストーブや飲食店向けに販売を行っていた。その後、市場調査・営業展開が功を奏して出荷量が倍増を続け、専従の従業員1名を新規雇用するに至った。

しかし、それでも生産能力の限界が近いており、高額となる自動機械の導入を検討していた。

今後の取り組みは？

生産能力が大きく向上したことを踏まえ、これまでの顧客へ安定した出荷をするとともに、市場調査を行いながら鹿児島県をはじめとする九州各県への販売を拡大していく。

また、生産コストが低減したことから価格を見直し、新規の顧客獲得や商圏拡大を図り、将来は関東方面への出荷も実現したい。